

日本のポンペイ

～ 渋川市の遺跡を探る ～

No.16

『金井東裏遺跡保存区について』

先日、人気テレビ番組で金井東裏遺跡が大きく取り上げられました。レポーターが現地を訪れ、実際に古墳人が発見された場所に立ち、古墳人に扮して当時を想像するものでした。

「甲を着た古墳人」は、平成24年11月に発見されました。その様子は、新聞やテレビで大きく報道され、遺跡で行われた現地説明会には、日本中からたくさんの人々が訪れました。その後、上信自動車道の工法を変更し、遺跡を保存することが決定され、現在に至っています。現地は、発掘調査の状態から埋め戻されていますので、古墳人が発見された時の状況を見ることはできません。しかし、古墳人が発見された場所に立ち、榛名山の方向を眺めることによって、古墳時代を想像することができるかもしれません。

金井東裏遺跡は、市中心部から県道渋川吾妻線（通称日陰道）^{ひかげみち}を吾妻方面へ進み、「金井」の信号を東へ右折し、約300mほど進んだ上信自動車道の橋脚の下に保存区として残されています。現地には、遺跡の説明板と遺構や遺物が発見された場所が表示してあります。工事中の箇所もあるため、遺跡を見学される際には十分注意してください。



金井東裏遺跡保存区に設置している説明板

（市文化財保護課）